

ワーキングマザーのためのビジネスウェア商品開発

藤田薫子^{*1)}、平山明浩^{*1)}、大橋健一^{*2)}、森山やよい^{*3)}

1. はじめに

ワーキングマザーの就労人口は年々増加傾向にある。なかでも自身のキャリアや社会に対する貢献など各々、就労意義を求め生き生きと働く女性の姿が多く見られる。しかし、勤務中のワーキングマザーを支える職場環境や衣生活環境の整備は、まだ充分ではないのが現状である。

そこで更なる女性の社会進出を支援するため、体型変化の大きい妊娠期間における衣服について、ユニバーサルデザインの視点から取り組み、職場で働き易く快適に過ごせる機能的なビジネス・マタニティウェアの開発を試みた。

2. 内容

マーケットリサーチ、ユーザーインタビュー、アンケート調査などによるワーキングマザーの実態調査を行い、意向・嗜好を把握した。またターゲットモニターによる体型計測を行い、身体の変化についてデータ収集した。

上記の調査結果から、デザイン機能について検討し、機能に適する有効な素材を選定した。

また体型計測によるリアルデータを基にパターン設計を行いワーキングシーンで快適に過ごすためのマタニティウェアのサンプルを作成した。ユーザーの意向と合致しているか、モニターによる試着試験を実施した。評価を受け修正点を抽出、パターン改良しマスターパターンを完成させ、さらにサイズ展開、製品化した。



図1 機能的デザイン設計

3. 結果・考察

製品開発で配慮すべきポイントは以下のとおりである。

アンケートの意向、嗜好調査により、ビジネス用マタニティに不可欠な機能を明確にすること。

モニター体型計測で隔週毎の体型変化によるウエストサイズピッチ、勤務中の姿勢、身体の負担を感じる部位についてなど、リアルデータを抽出する。

身体の負担を軽減させる機能、また仕事をする上で便利なポケットなどの機能や体型変化に対応するサイズ調整機能など、素材、副資材選定を含みデザイン設計に不可欠である。体型変化に合わせ、産前産後のウェアの利用を考慮したデザイン設計（図1）が有効である。

数値データによる適合ボディを選定し、立体裁断による原型を作成して、体型特徴を出来るだけカバーするパターン設計が必要となる。

4. まとめ

ワーキングマザーから、機能性のあるマタニティウェアを切望する声が多く聞かれ、勤務中いかに快適に過ごすことを考え、工夫をしているか、実態調査で浮き彫りになった。

日々の業務を行う上で、快適で機能的なビジネス用マタニティウェアの重要性は、必要不可欠と考える。

平成21年2月中旬に機能性と快適性を兼ね備えた「新・ビジネス・マタニティウェア」が共同開発企業より販売されユーザーから好評を得ている。（図2）



図2 ビジネス・マタニティウェア

*1) 墨田支所、*2) 技術経営支援室、*3) 株式会社オプティマミー